

第 1 回 安間川流域委員会 会議録

日時	令和 7 年 3 月 6 日（木） 10：00 から 16：00 まで
場所	静岡県浜松総合庁舎 7 階 701・702 会議室（浜松市中央区中央 1-12-1）
委員出席者 職・氏名	田中 博通（東海大学 名誉教授） 宮崎 一夫（遠州自然研究会 事務局長） 寒竹 伸一（静岡文化芸術大学 副学長） 鈴木 一有（浜松市博物館 館長） 村越 紳人（西部農林事務所 農山村整備部長） 山下 真人（川や湖をきれいにする市民会議） 松本 久和（笠井地区連合自治会長） 森田 良信（長上地区連合自治会長） 米山 英二（和田地区連合自治会長） 松本 弘（浜松市上下水道部次長兼下水道工事課長）〔代理出席〕 戸塚 博文（浜松市技術統括監） 濱田 輝秀（浜松市都市整備部長） 平井 親一（浜松市土木部長） 中津川 英彦（浜松市土木部河川課長）〔代理出席〕
議題	1 開会 2 挨拶 3 委員の紹介 4 設立趣意説明 5 安間川流域委員会 設置要領 6 委員長選出 7 委員長代理指名 8 委員長挨拶 9 議事 （1）河川整備計画について （2）流域及び河川の現状について （3）今後の予定について （4）河川の現地視察
配布資料	資料 1－1 出席者名簿 資料 1－2 座席表 資料 1－3 設立趣意書 資料 1－4 安間川流域委員会 設置要領（案） 資料 2 説明資料（流域及び河川の現状と課題） 資料 3 現地視察資料

■議事内容

[事務局から資料2により（1）河川整備計画について、（2）流域及び河川の現状について説明]

（委員）

- ・ 資料2のP.15の流域内の文化財について、指定文化財・登録文化財の正確な情報を提供するため、修正すること。

（事務局）

- ・ 確認し、修正する。

（委員）

- ・ 資料2のP.31に示しているように、万斛橋上流の笠井地区の浸水に対しては、20年間の懸案事項である。行政は対策を講じるとのことであったが、現状で具体的な対策はなされていない。この理由についてお聞きしたい。

（事務局）

- ・ 現行計画の策定当時は、計画対象外となっていた。近年、降雨の状況も変わり、笠井や寺島地区で浸水が頻発していることは認識している。今回の河川整備計画の変更では、計画対象区間に位置付けする事が必要であると考えている。位置づけた上で、目標や実施方針を検討し、次回以降の委員会で説明したい。

（委員）

- ・ 期成同盟会においても、流れを良くするために川底を低くする提案があった。しかし、和田地区は1メートル掘ったら地下水が出ることを踏まえると、日本各地で検討されている放水路で天竜川へ排水する計画は検討できないのか。

（事務局）

- ・ 貴重な意見として、今後の参考にさせていただく。

（委員）

- ・ 資料2のP.19に示しているように、長上地区では下流域の浸水が顕著である。これは遊水地から溢れて下流に回っていること、水田の減少により流域の保水能力が減少していることが要因としてあげられる。土地開発時には、保水能力を担保させることを義務づけてはどうか。現時点でも法令あるとは思いますが、規制をより厳しくしてはどうか。

（事務局）

- ・ 資料 2 の P. 18 に示している近年洪水の確率規模のとおり、近年は 1/100 以上の降雨が頻発している。そのため、流域全体で水災害対策を行っていく流域治水の考え方にに基づき、水災害対策プランを策定し、県と市の関係部局で連携しながら対策を進めている。

(委員)

- ・ 早急な対応をお願いしたい。

(委員)

- ・ 現在運用されている安間川遊水地は、計画容量まで達しておらず、整備は途中段階である。令和 4 年度の洪水では遊水地から水が溢れていることから、早急な整備完了が必要である。また、万斛橋上流域に遊水地を計画する話し合いもなされたことがあるが、実現には至っていない。既設の安間川遊水地について、計画容量まで整備をしていただきたい。

(事務局)

- ・ 現時点において、遊水地は 21 回の活用実績がある。別箇所には遊水地を設定するのか、現施設を強化するのかは今後協議させていただきたい。

(委員)

- ・ 遊水地は機能しているが、排水が悪くすぐに満水になる。下流域の河道整備を進める必要がある。

(委員長)

- ・ 安間川遊水地は完成しているのか。

(事務局)

- ・ 現在は暫定供用であり、計画容量に対し約 90%の容量となっている。

(委員長)

- ・ 完成形への整備を進める必要がある。

(委員長)

- ・ 万斛橋が治水上のネックとなっている印象である。適切な整備を実施し、流域住民に安心・安全な生活を提供してほしい。下流からの整備にこだわらず、上流の整備を検討してほしい。

(委員)

- ・ 安間川公園の地下に貯水池を作ったらどうかと提案している。提案してから 10 年

経過しており、返答がない。

(事務局)

- ・ 安間川公園の地下貯水池については、浜松市の管轄のため、流域全体での協議の上進めていく必要がある。また、計画・検討した内容については、委員会等を通じて発信する。

(委員)

- ・ 資料3のP.7に示しているように、西支線と合流してすぐに万斛橋がある。橋が狭窄箇所、豪雨時にはこの付近が湖ようになる。公園を兼ねた貯水池を早急に整備してほしい。

(事務局)

- ・ 貯留施設を整備することになれば、周辺住民の利用も考慮した貯留施設を検討したい。

(委員長)

- ・ 放水路は天竜川まで距離があるので、時間とコストがかかり現実的ではない。考えられる案としては、遊水地・貯水池が現実的であると思う。国土強靱化が継続するのであれば予算があるはずなので、住民に寄り添った整備計画を策定していきたい。

(委員)

- ・ 委員長の話、自治会の不安の声を受け、計画策定の過程を広報していくことが不足していると感じた。将来の街づくりの観点も含め、治水計画の検討過程を住民に伝える必要がある。

(事務局)

- ・ 治水だけでなく、利用・環境も取り入れながら検討をすすめたい。また、広報という観点でも、策定の過程を示せるようにしたい。

(委員長)

- ・ 住民説明会等の住民の意見を取り入れる場も設けながら、可能な限りスピード感をもって現実的な治水対策を策定し欲しい。

(委員)

- ・ 環境について、洪水が頻発する場所に生育する生物(ミクリなど)もいる。ミクリは絶滅危惧種で静岡県でもあまり見られない。湧水が豊富で、流れが緩やかな場所に生育する。逆に、河川の流速が大きいと生育できない。良好な環境を維持し、ぜひ

とも共生できる河川を整備してほしい。

(委員長)

- ・ 河川環境についても考慮しながら計画策定を進めていただきたい。

[事務局から資料2「[事務局から資料2により(3)今後の予定について説明]

(委員)

- ・ 資料2のP.7の整備状況を見ると、計画に対して実施できるもの、できないものが見えている。整備の実現性の観点から優先順位を設定して順次すすめてほしい。

(委員長)

- ・ 整備の実現性の観点も考慮する必要がある。

[現地視察箇所(資料3)を視察後に意見交換を実施]

(委員長)

- ・ 現地視察をうけて、質疑・意見はあるか。

(委員)

- ・ 治水上のネックは、国道一号箇所と万斛橋付近箇所かと感じた。万斛橋は橋梁架け替えが進んでいるとのことであったが、万斛堰は10年使用していないものの、道路として使用しているとのことだったので、万斛堰は撤去しても道路は残してほしい。

(委員)

- ・ 万斛堰の管轄は浜松土地改良区にあたるため、管理者と協議をして、利水上支障がないか確認・協議が必要である。

(委員)

- ・ 農村環境として良好な景観が残っていてよいと感じた。風景のランドマークとして重要になるので、撤去が必要であるとしても、風景の一部であることを考えてほしい。また、防災・減災・知災が進んでいる中で、生活と川がかけ離れて行っている状況になっている。人文的な観点も取り入れていただきたい。

(委員)

- ・ 遊水地奥側の下流側において、遊水地の周囲堤を越えて民家側に流出した旨を聞いた。流出の状況やその際はどの程度被害が出たのか教えてほしい。また、対応方針

などあれば教えてほしい。

(委員)

- ・ 令和4年9月23日の洪水で越水した。当時は排水ポンプが2基しかなかったため、排水しきれないうちに流入した。現在は4基に増えている。

(事務局)

- ・ 令和4年9月2日の洪水で遊水地はほぼ満水、排水しきれないうちに、令和4年9月23日の洪水が襲来した。遊水地の容量の増強については、他の治水対策との優先順位を考えて検討する。

(委員)

- ・ 河川整備のみにとらわれず、流域の保水等も考慮してほしい。

(委員長)

- ・ 現地視察を受けて、国道一号地点については安間川公園の地下貯留も有力な案だと感じた。安間川遊水地は完成形でないが、利用面については今後考える必要がある。万斛堰は、治水上の観点では撤去する必要があると考える。万斛橋周辺については、遊水地の適地はありそうなので、地権者と協議を進めたらよいと考える。地下水の問題もあるので、掘削には留意が必要である。

(委員)

- ・ 資料2のP.18について、令和5年の老間地区の浸水要因を説明いただきたい。

(事務局)

- ・ 安間川に接続している樋門の水路からあふれて浸水被害があった。

(委員)

- ・ 安間川は天竜川合流しているため、天竜川の計画と整合を取る必要はないのか。

(事務局)

- ・ 国土交通省が策定した天竜川の整備計画と整合を図りつつ策定を進める。

(委員)

- ・ 老間地区の浸水は、天竜川本川水位が高い影響があった旨を聞いている。

(委員長)

- ・ 天竜川と安間川とでは流出時間が異なる。両河川における合流付近でのピーク水位の発生状況は調べて欲しい。

(委員)

- ・ 海の干満でも、かなり流況は影響を受ける。満潮時であれば、東海道新幹線付近まで影響しているように感じる。また、資料２の P. 28 に安間川における生物の生息状況を示しているが、フナやアユもいることを確認している。

(委員長)

- ・ 特に質問がなければ、以上をもって本日の議事を終了する。

以上